

わまっごジャーナル

2024
一春号一
盛岡市 農政課
協力隊発行

【築川産蕎麦を通じて 広がる人の輪】

築川地域では現在でも時間と手間をかけて手作業で蕎麦がつくられています。私も2021年から旧築川小学校協会の畑をお借りして、蕎麦の栽培を行なっています。

今年度は蕎麦の種まき・刈り取り・脱穀・蕎麦打ちの体験会を実施し、家族連れや大学生を中心に計26名の方々にご参加いただきました。蕎麦をきっかけに地域に足を運んでいただく一歩となりました。

体験会の参加者でもある岩手大学の団体「ゆきわたり工房」と盛岡市内の日本茶カフェ「T stand MORIOKA」に築川産蕎麦を使用した「そば茶プリン」を共同開発していただきました。そば茶プリンは2月に築川老人福祉センターで開催されたイベント「やながわ おおがゆ 山の灯り 里の灯り 2024」で試食提供し、地域の皆様から好評をいただきました。蕎麦茶ラテ、蕎麦粉のバスケット「T stand MORIOKA」の店頭や市内のイベントで販売される予定です。それ以外にも、ユートランド姫神内に「チャレンジ工房つなぐ」を開業した協力隊員に「蕎麦粉のプリン（蕎麦茶のわらび餅のせ）」を開発いただきました。こちらはユートランド姫神内の産直で販売されています。蕎麦を通じて築川の地名度向上を図りたいという思いに賛同いただき、

たくさんの方々にご協力いただいております。4月から一年間の産休・育休を取得しますが、復帰後も築川の蕎麦を核として地域に携わる人の輪を広げてまいりたいと思います！（高橋佑未）



蕎麦の実の脱穀風景



築川産そばを使用した商品「そば茶プリン」

この冬は暖冬かと思いきや、3月の積雪。それでもようやく暖かくなり、里山も春らしくなってきました。前回の号から時間が空いてしまいましたが、私たちの活動をご報告いたします！

【令和五年度の活動を ざっくりと振り返り】

地域おこし協力隊から集落支援員になって二年が過ぎました。

一年目に引き続き、協力隊時代の活動を発展させつつ継続しています。大ヶ生で暮らしてきたみなさんの豊かな知恵に触れる機会を作りたいという思いがずっとあり、こあらかまどの曲り家を会場にしたホウキ作り教室を、盛岡市内のカルチャーセンター主催で数年前から開催し続けていて、4月と5月にも開催予定です。

3月には勝文字さんと鍛冶屋敷さんに味噌作りを教わる教室を企画し、満員御礼の盛況でした。

昨年の夏からは大ヶ生特産のミョウガの漬物「朝島漬け」の継承も進めていて、



ホウキ教室のチラシ

昨年の夏には下大ヶ生の無人販売所で販売しました。2月に開催した「やながわ おおがゆ 山の灯り 里の灯り」は今回で四回目を迎えました。この冬は雪不足だったため、イルミネーションをメインにした会場作りとなりましたが、今回も大ヶ生のみならず、ご協力のおかげで素晴らしいイベントになりました。今回は江柄の朝島りんご園さんと上大ヶ生のキャンプ場ルキオラさんにもご参加いただき、ふれあい公園と合わせて三会場でいっそう賑やかに開催でき、人の輪も広がって嬉しく思っています。

昨年の秋には元協力隊の池内（川村）さんと現役協力隊の山代くんと三人で作った大ヶ生パンフレットの改訂版が完成したので、大ヶ生の発信に役立てていきます。（富岡美恵）



「やながわ おおがゆ 山の灯り里の灯り」会場風景



「やながわ おおがゆ 山の灯り 里の灯り」大ヶ生会場



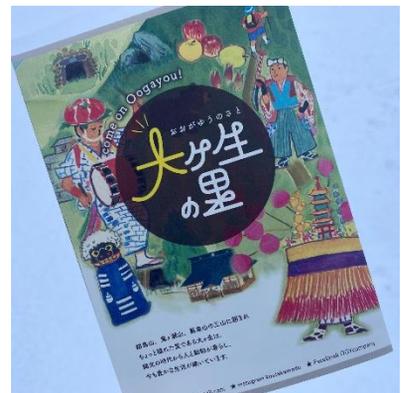
味噌作り教室の様子



例大祭で奉納した大ヶ生山伏神楽



盛岡市農業まつりの大ヶ生ブース



大ヶ生地域のパンフレット

【大ヶ生で迎える 三回目の春を前に】

早いもので、地域おこし協力隊の活動も二年と半年が過ぎました。令和五年度一年間の活動を、大まかに紹介いたします。

一昨年の夏から始めた、木の皮を用いた布づくり。昨年春に、初めての布が織り上がりました。昨年の夏には、地元の山林で樹皮を採取するワークショップを開催。冬の間には糸に加工。この春からまた少しづつ布を織り始める計画です。先日3月23日には、「山の木から布を織る」と題して、市内のNHK文化センターでお話する機会も頂きました。

協力隊着任当初から参加させて頂いている、大ヶ生山伏神楽。これまでも、郷土芸能フェスティバルや祝賀会での公演はありましたが、昨年8月の例大祭では初めて地元大ヶ生の、板橋神社境内で奉納することができました。

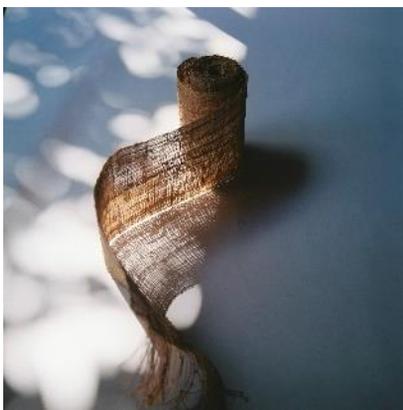
10月最後の週末は、盛岡市農業まつりへ出店。富岡さん、大ヶ生地域有志の皆さんと、大ヶ生の特産品を販売。沢山のお客様の元へ、新鮮な野菜やりんご、美味しいお漬物などをお届けすることができました。

罨の免許を取得してから、二回目の狩猟期間。11月から捕獲できたのは計三頭のみでしたが、自分自身で捌くまでの一連の工程を実践することもでき、大変勉強になりました。

今年1月には、下大ヶ生公民館を会場に、新年お餅つぎの会を開催。地域の皆様はじめ、子ども会の皆様にご協力・ご参加いただき、寒さも忘れて15キロのお餅を搗き上げました。

昨年度一年間を振り返ると、感染症の

影響もようやく落ち着き、これまで通りの地域の姿に徐々に戻りつつあるように感じます。また、日頃から地域内外の皆さんの皆様に、ご理解ご協力いただき、協力隊の活動を続けられているのだと、改めて感謝しております。
(山代森)



シナノキの樹皮で織った布



搗きたてのきな粉、あんこ、くるみのお餅